

「竹から目線」で生活を彩る 竹工芸を追求

初田徹さんと竹工芸との出会いは大学時代、流しそうめんに使う竹を探して飛び込んだ店で、竹の仕事を見て良いと思ったのがきっかけです。修行を続けながら、世襲の伝統もネームバリューも持たない自分が竹工家としてやって行くには、自ら竹工芸の用途を創っていかねばならないと考えました。

初田さんの作品は、お茶道具でも外でお茶を飲むときに使うような、あまり流儀に縛られないもの。その分自由に作る事ができると言います。気を付けるのは「すばらしい作品だけど、使うところがないよね」と言われないこと。生活の中で活かせる作品を目標に、伝統工芸の縛りを現代にアレンジした壁のオブジェなど、新たな領域にも意欲的に取り組んでいます。竹工芸の未来を開くために、みんなが少しずつ竹のことを気にして「竹から目線」で生活を眺めることを勧めている、と言う初田さんです。



古材の煤(すす)竹を用いて削りつづける、菓子切り「ささのは」

ここがすごい!!

歳月が育てた材料を 現代に生かす

「煤(すす)竹」は自然には生えていません。かやぶき屋根の屋根組に使われた竹が、100年以上も囲炉裏の煙に燻(いぶ)されて褐色に変化したものです。初田さんは、竹林から伐採した新しい竹や、こうした長年の人間の暮らしから生まれた古い竹を巧みに組み合わせ、ときには1点の籠に5種類もの竹を用いて作品に仕上げます。また煤(すす)竹の菓子切りなど、現代の生活にマッチし若い人も気軽に使える作品づくりにも力を入れています。



良質の煤(すす)竹を吟味して削る茶杓



5種の竹材を組み合わせた「小籠(ko-bako)」、茶籠を意識しているが用途は限定しない。(第51回東日本伝統工芸展入選作品)



イメージにあった材料を選択し、持ち味を最大限に発揮するように組み上げる

竹工家 初田徹

www.toruhatsuta.com

代表者 初田 徹
所在地 (非公開)
主な事業 竹を素材とする日用品、茶の道具、美術作品の制作
連絡先 ホームページからお問い合わせをお願い致します。



デザインから仕上げまで、一貫して手がけます

VOICE ④ 自分の方向を決めるのは自分自身

人の意見を聞くことがまず大切。ただし、人の立場によって意見も色々あるので、最終的には自分の意見が求められます。常識はあるようでないもの。傲慢(ごうまん)になってはいけないけれど、自分の選んだ道を信念を持って進んでいけば、いずれ賛同者が増えてきます。



初田徹さん